

# 総 合 分 野

授業科目	看護基礎セミナー		科目責任者	宮林 幸江	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件なし
					時間数	30	受講セメスター	1年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	大学で看護学を学ぶ基本を理解する。							
	到達目標	1. 多様な年代の様々な立場にある人々の生き方について理解できる。 2. 大学で学ぶことの基礎となるスタディ・スキルを身につける。							
回数 (1回90分)	学習課題		学習内容ならびに方法					担当教員	
1	[スタディ・スキルを学ぶ] 多様な人々の生き方の理解において、学びの基礎であるスタディ・スキル(:S. SKL)を学ぶ。 ①文章の読み方・まとめ方、プレゼンやディスカッションとはについて学ぶ。		[講義 S. SKL①] オリエンテーション/楽しく学ぶ一環として看護大学で学ぶために必要なスタディ・スキル(読む・書く・話す・話す以前の資料の準備を含む等)を中心に大学で学ぶ基礎について理解する。					宮林	
2	グループワーク(:GW) 1		[GW1] グループ(自己・他者紹介、上記の講義を受けて大学で学ぶ上での基礎についてグループを通してさらに深める)					担当教員	
3	スタディ・スキル②図書館の利用法・必要な資料の探し方		[講義2 S. SKL②] 図書館の上手な利用法を身につけるために、図書館でオリエンテーションを受ける。					図書館係	
4	グループワーク 2		[GW2] 図書館を活用し、グループ内で、推薦図書をランダムにあげ、ディスカッションするテーマを焦点化する。					担当教員	
5	グループワーク 3		[GW3] GW2での決定図書を深く読み(「考える」スキル)、各自が読みとったことについて話し合う。その中からディスカッションしたいテーマを決定する。					担当教員	
6	グループワーク 4		[GW4] グループでのディスカッションの目的やそのテーマにそってさらに考え・調べたいことを確認し、資料を作成する(プレゼン前の資料作成)。					担当教員	
7	スタディ・スキル④レポートの書き方		[講義4 S. SKL④] 書く時の情報の活用の仕方を含むレポートの書き方について(書くスキル)理解する。					浜端	
8	スタディ・スキル③情報と情報倫理について		[講義3 S. SKL③] 情報の使い方と情報倫理について理解する。					渡邊	
9	グループワーク 5		[GW5] 準備資料を活用し、仲間とのコミュニケーションやディスカッションを行う。これら一連の作業を通し仲間との交流を深めて行く。					担当教員	
10・11	グループワーク 6、7		[GW6、7] さらに別の図書を探索し、準備資料を準備しディスカッションを行う。					担当教員	
12	グループワーク 8		[GW8] GWのディスカッションで意見が出尽くしたら、最後にGWで学んだことをまとめる。					担当教員	
13・14	グループワーク 9、10		[GW9、10] 之までの作業の中から自らのレポートのテーマを決定し、形式を整えレポートを書きあげる。					担当教員	
15	評価		評価						
教科書	なし				参考書等	・前原澄子ら監修：看護学生のためのよくわかる大学の学び方。金芳堂、2015 ・各担当教員が必要に応じ提示する。			
履修条件	なし				評価方法	プレゼン、ディスカッション等への参加態度(50%)、レポート(50%)。			
備考	大学での学びの基礎となるスタディ・スキルを確認しつつ、書籍を読み込み、問題点やディスカッションしたいテーマについて提案できるように準備をしましょう。実際のGWではディスカッションに積極的に参加しましょう。最後にはレポート作成の要点を踏まえつつレポート作成をしましょう。								

授業科目	文献講読セミナー	科目責任者	中村 美鈴	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件なし
				時間数	30	受講セメスター	2年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	看護の充実にかわる研究成果の収集とその応用のための基本的な方法を修得する。						
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護における課題や疑問の解決に向けて文献・情報を収集する。</li> <li>2. 特定の看護実践課題の改善・充実に向け研究成果を確認し、看護実践方法の改善課題を整理する。</li> </ol>						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	看護と文献	[講義] コースオリエンテーション 文献の定義と役割、情報の発生について理解する。					中村	
2	看護に役立つ参考資料と情報源	[講義] 看護に役立つ参考資料と単行書、学術雑誌、学術論文の構成について理解する。					中村	
3	一次資料・二次資料と参考文献	[講義] 資料の種類と構造、ならびに参考文献(辞典、事典、法令・通達、社会状態や行政の取りくみ、統計データ、検査方法データ、薬品)等の調べ方について理解する。					佐藤	
4	興味・関心のあるテーマ	[演習] 各学生が興味・関心のあるテーマを持ち寄り、検討する。					中村/担当教員	
5	看護の洋文献の講読方法	[講義] 看護に関する洋文献の講読について理解を深める。					鹿野	
6	収集した文献整理と発表方法	[講義] 収集した文献の整理方法とレポートの記述と口頭発表の方法について理解する。					長谷川	
7	図書館の効果的活用と文献検索の実際Ⅰ	[演習] 医学中央雑誌、CiNii、今日の診療、OPAC など主に和文献の検索方法について、パソコンを操作し、体験的に理解する。					図書館職員 中村/担当教員	
8	図書館の効果的活用と文献検索の実際Ⅱ	[演習] PubMed, MEDLINE, CINAHL、など主に洋文献の検索方法について、パソコンを操作し、体験的に理解する。					図書館職員 中村/担当教員	
9	インターネットの情報資源	[演習] インターネットの信頼性、役に立つ Web サイト、電子ジャーナルについて理解する。					関山	
10	テーマについて検索	[演習] 各自、自分が調べたいテーマについて検索する。					中村/担当教員	
11～14	調べたテーマに関する報告	[演習] 各自が関心あるテーマに関して調べた文献をもとに、一人40分程度で検索方法や解釈について、発表資料を作成し討議する。討議を踏まえて、洗練したレポートを提出する。					中村/担当教員	
15	試験							
教科書	山崎茂明・六本木淑恵:看護研究のための文献検索ガイド 第4版、日本看護協会出版会、2013.			参考書等	授業で紹介するほか、グループ別学習では、各学生の興味や関心にそって検索した参考書を使用する。			
履修条件	なし			評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験</li> <li>2. 討議内容とレポート</li> <li>3. 授業態度</li> </ol> 上記1～3について総合的に評価する			
備考	学問の真理を追究する方法をしっかりと身につけることで、研究セミナー、看護総合セミナー、総合実習など、後々の看護実践を研鑽するための科目の基盤となる授業である。予習・復習として、指定教科書を含め関連する書籍を精読して、授業に臨むことで自己の考えや理解が深まるであろう。							

授業科目	研究セミナー	科目責任者	塚本 友栄	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	15	受講セメスター	3年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	看護実践を積み重ねる過程で専門性を深めていくための基本的な方法を理解する。						
	到達目標	1. 看護研究の目的と意義を理解する。 2. 看護研究方法の基本を理解する。 3. 看護実践課題の改善・充実に向けた研究の問いを検討する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1・2	オリエンテーション 研究とは  看護研究とは何か	[講義] 研究セミナー オリエンテーション 研究とは何か、研究の目的、研究者・研究対象者・研究協力者等研究に関わる人々について学習する。 看護研究とは何か、看護研究の目的と意義、研究の問いの源について学習する。					塚本 春山	
3・4	研究の問いと研究方法  研究のプロセス	[講義] 研究の問いと、それに応じた研究方法の選択の重要性を学習する。 研究のプロセスを学習する。					春山	
5	倫理と看護研究	[講義] 研究の倫理とは何か、研究を進めていくために不可欠な倫理的配慮について学習する。					塚本	
6	研究計画 研究成果のまとめ方	[講義] 研究計画書の内容を学習する。 論文の構成と書き方、報告・公表の方法を学習する。					塚本	
7・8	文献検討による看護実践課題の整理と研究の問いの検討	[演習] これまでの講義・演習・実習から生じた疑問や自分自身の課題に関する文献検討を行い、研究成果を確認するとともに、看護実践課題の改善・充実に向けた研究の問いを検討し、レポートにまとめる。					塚本・土谷 横山(絢)	
教科書	「看護における研究 第2版」南裕子編、日本看護協会出版会、2017年			参考書等	第1回目の授業において複数の文献を紹介する。			
履修条件	なし			評価方法	1. 課題レポート(85%)。但し、レポートに取り組む際はルーブリック(授業時配布)を参照すること。 2. 講義において提出を求める記録物(15%)			
備考	「看護基礎セミナー」や「文献講読セミナー」等で習得した、文献や情報を収集・検討する力を活かし、看護実践の改善・充実に向け創造的に探求するための能力を養う。「総合セミナー」の基盤となる科目である。学生には、自己の知りたいことを追求する姿勢、教科書の学習課題該当箇所の予習・復習を行うことが求められる。また、追求すべき課題を明確化するために、3年前学期までの講義・演習、特に実習において、疑問に感じたことを想起しておくことが望まれる。							

授業科目	看護総合セミナー	科目責任者	塚本 友栄	単位数	4	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	120	受講セメスター	4年次 通年	
学習目的と到達目標	目的	自己の看護実践課題を明確にし、医療や看護を取り巻く社会情勢の変化やその方向性を踏まえながら、対象者にとって必要とされる看護実践を開発することができる総合的能力を養う。						
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の看護実践課題の解決に向けて、理論的知識や先行研究の成果を活用できる。</li> <li>2. 医療チームメンバーの一員として、より質の高い看護援助を提供するためのしくみと役割を説明できる。</li> <li>3. 現在の看護実践における課題を明らかにし、社会の変革の方向を踏まえた将来展望を持ち、看護学発展のための考えを述べることができる。</li> </ol>						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1  2～15 (前学期)  16～60 (後学期)	<p>オリエンテーション</p> <p>自己の看護実践課題に関連する文献等を用いて情報収集する。</p> <p>総合実習で配置された場において可能な目標及び方法を明確にする。</p> <p>総合実習で配置された場において展開した実践内容を踏まえ、課題の解決、必要な他職種や他機関との協働、チームアプローチについて明確化し、看護実践を発展させるための方策を検討する。</p>	<p>[演習]</p> <p>1. 演習方法 学生はグループに分かれて学習する。</p> <p>2. 演習時期・演習内容 【前学期】(30時間)</p> <p>① 学生はこれまでの実習を振り返り、自己の看護実践課題を明確化する。</p> <p>② 課題に関連する文献等を広く閲覧し、課題を取り巻く医療や看護を取り巻く社会情勢の変化やその方向性を踏まえながら、得られた情報を整理し、自己の看護実践課題の位置づけを明確化する。</p> <p>③ 配置された実習場所で可能な実習計画を作成する。</p> <p>【後学期】(90時間)</p> <p>④ 総合実習における実習内容を踏まえ、対象者にとって必要とされる看護実践を発展させるための方策について、文献を用いて考察を深め、研究レポートを完成させる。</p> <p>⑤ 研究レポートにまとめた内容に基づき、グループ別の発表会において発表する。</p>					全教員	
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない			
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位を取得していることが必要な科目</li> <li>「文献講読セミナー」「研究セミナー」</li> <li>「小児期看護実習」「周産期看護実習」</li> <li>「成人期健康危機看護実習」「成人期長期療養看護実習」</li> <li>「老年臨床看護実習」「老年在宅看護実習」</li> <li>「精神保健看護実習」「公衆衛生看護実習」</li> <li>・単位取得見込みが必要な科目 「総合実習」</li> </ul>			評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[看護総合セミナー 評価票] (100%)</li> </ul>			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は、「総合実習」と連動しながら学習を展開する。予習として、「研究セミナー」で得た知識を復習すること、様々な実習を振り返り、自己の『看護実践における課題』について考えておくことが求められる。それらを踏まえ「総合実習」では、資料や文献等を活用しながら、看護実践を検討することが求められる。</li> <li>・「看護総合セミナー」で提出するレポートは、看護学部最終学年で提出する卒論にあたるものである。レポート作成にあたっては、自ら行動計画を立案して取り組む姿勢が求められる。</li> </ul>							

授業科目	看護トピックス	科目責任者	本田 芳香	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	30	受講 Semester	4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	高度医療の場、へき地、その他医療・看護の現場における現在の看護実践の課題を理解し、将来展望をもつ。						
	到達目標	1. 現在の看護実践における課題を理解できる。 2. 将来の看護実践のあり方を考えることができる。 3. 卒業を前に、自己の看護職としての心構えと将来展望をもつことができる。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1～6	現在の看護実践に関わる注目すべき内容や課題の理解①	〔講義・演習〕 高度医療の場における看護、へき地看護、その他医療・看護の現場で注目すべきトピックスや教員の専門領域にかかわるテーマから、現在の看護実践に関わる注目すべき内容や課題を学習する。 ・7テーマ程度を設定し、学生はいずれか1つのテーマを選択し、学習する。					全教員	
7・8	現在の看護実践に関わる注目すべき内容や課題の理解②	〔演習〕 ・学内や学外で行われる学会、講演会、公開講座等に参加し、医療・看護の現場で注目すべきトピックスや現在の看護実践に関わる注目すべき内容や課題を学習する。 ・学生は自己の関心に応じて主体的に参加し、学習する。					全教員	
9～15	4年間の学習の振り返りと将来展望を踏まえた自己の学習課題の明確化	〔講義・演習〕 これまでの学習を振り返り、また将来展望を踏まえて、自己の課題を明確にし、課題克服のために学習する。					全教員	
教科書	指定しない			参考書等	指定しない			
履修条件	なし			評価方法	1) 1～6回 記録物、学習態度等で評価する。(60%) 2) 7・8回 レポートで評価する。(20%) 3) 9～15回 学習態度で評価する。(20%)			
備考	これまでの学習を踏まえて、高度医療の場、へき地、その他医療・看護の現場における現在の看護実践の課題を理解し、将来展望をもつ科目である。各回の課題について、予習・復習して学習を進めること。 1～6回の講義・演習は、看護学科目によっては前学期に実施する場合がある。各看護学科目の授業予定および7・8回で紹介する学会、講演会、公開講座等については、4月のオリエンテーションで説明する。最高学年に相応しい学習態度で臨むこと。							



授業科目	がん看護学	科目責任者	飯塚 由美子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
				時間数	15	受講semester	2年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	対象ががんを患う意味と、生命・生活への支障・影響を理解し、対象とその家族に必要な看護を学習する。						
	到達目標	1. がんの特徴・がん治療の特徴と看護を理解する。 2. がん治療を受ける対象に必要な看護を理解する。 3. がん体験者・がんと共に生きる対象の生活と必要な看護を理解する。 4. がんと共に生きる対象とその家族に必要な緩和ケアを理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	がんの特徴・がん治療の特徴と看護	[講義] がんの診断やがん治療が対象に与える影響と必要な看護について学習する					飯塚	
2	がんの各期における緩和医療と緩和ケア	[講義] がん診断期、がん治療期、がんの再発・進行期、終末期の各期における対象の生命・生活における緩和医療、緩和ケアのあり方について概観する。					丹波	
3	がん体験者・がんと共に生きる患者の生活の理解と看護(1)	[講義] 乳がんと共に生きる対象の生活を理解し、必要な看護について学習する					軽部	
4	がん体験者・がんと共に生きる患者の生活の理解と看護(2)	[講義] がん化学療法を受ける対象の生活を理解し、必要な看護について学習する					田中	
5	終末期のがん患者・家族の特徴と看護	[講義] 死の予期が患者・家族に与える影響、生き抜くことを支える看護、死別後の家族への看護について学習する。					小松崎	
6	がんと共に生きる患者・家族に必要な緩和ケア(1)	[講義] がんに伴う症状(痛み、リンパ浮腫、倦怠感など)が患者の生命・生活に与える影響と必要な緩和ケアについて学習する。					小原	
7	がんと共に生きる患者・家族に必要な緩和ケア(2)	[講義] 病状の変化や患者・家族の意向に応じた療養環境の選択・調整と必要な緩和ケアについて学習する。					飯塚	
8	評価	レポート(テーマは後日提示)						
教科書	なし			参考書等	「がんサバイバーシップ―がんとともに生きる人びとへの看護ケア」近藤まゆみ・嶺岸秀子編著:医歯薬出版、2006. 「系統看護学講座別巻 緩和ケア(第2版)」恒藤暁・内布敦子編、医学書院、2014.			
履修条件	なし			評価方法	レポート(80%)、参加態度(20%)により総合的に評価する。			
備考	がん看護は、今後実践する上で基本的な看護ケアの一つである。主体的に学ぶ上で、参加態度を重視する。事前学習、事後学習を十分行うこと。							

授業科目	へき地の生活と看護	科目責任者	青木 さぎ里	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件なし
				時間数	30	受講 Semester	1～4年次 後学期	
学習目的と到達目標	目的	へき地に住む人々の生活と看護の特徴を理解する。						
	到達目標	1. へき地に住む人々の生活を理解し、人々の健康との関連を考えることができる。 2. へき地における看護活動の現状と地域の社会資源の整備状況を捉え、看護の機能・役割を考えることができる。 3. 1と2からへき地における看護の特徴を考えることができる。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	オリエンテーション	[講義] オリエンテーション 学習目的、学習目標、学習方法、研修施設の概要、科目の進め方、評価について説明する。					青木	
2	へき地と地域住民の生活の理解 (1)	[演習] ・へき地の意味を知り、地域特性と生活との関連について情報収集およびグループワークを通して考える。					青木	
3	へき地と地域住民の生活の理解 (2)	[演習] 研修施設やその地域に関する情報収集および調べ学習を通して、各自の興味関心をもとに学習目標を設定する。					青木・田村・古島・湯山・横山 (綯)	
4	へき地と地域住民の生活の理解 (3)	[講義] へき地で行われている医療や看護について理解する。さまざまな看護活動と人々の生活のかかわりについて理解する。					臨床教員 青木	
5～14	臨地における研修 へき地における看護活動 保健医療福祉活動の見学・体験	[演習] 臨地研修施設において、学習課題の達成と自己の学習目標の達成を目指して研修する。  (おもな研修内容) 出張診療 巡回診療 訪問診療 訪問看護 居宅介護支援 施設見学 デイケア 訪問リハビリテーション レクリエーション 等					青木・田村・古島・湯山・横山 (綯)	
15	へき地の看護活動の実際と住民の生活との関連	[演習] ・研修での学びを報告し、へき地での看護の特徴や機能・役割について討議する。 ・討議をもとに研修の学びを整理し、今後の自己の学習課題を考える。					青木・田村・古島・湯山・横山 (綯)	
教科書	指定なし			参考書等	指定なし			
履修条件	なし			評価方法	1. 課題レポート (50%) 2. 研修前に提出を求める記録物 (30%) 3. 研修報告会 (第15回) の参加態度 (20%)			
備考	受講する学生自らが、学習進度に合わせて本授業科目の目的・目標を達成するための自己目標を立てる。 へき地等の看護に興味を持っている学生の受講を望みます。1～4、15回は学内、5～14回は、臨地にて実施する。 事前に研修施設一覧により各研修施設の所在地や研修内容を把握して臨むこと。課題レポートの作成が復習となる。							



授業科目	総合実習	科目責任者	春山 早苗	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	90	受講セメスター	4年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	看護の対象者及び看護実践現場の特性を踏まえて、対象者にとって必要な看護を展開するための総合的能力を養う。						
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の対象となる人々の権利を考え、人権を護ることができる。</li> <li>2. 理論的知識や先行研究の成果を活用し、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる。</li> <li>3. 看護実践の場の特性に応じた看護を実践できる。</li> <li>4. 看護職間、他職種、他機関との連携・協働の方法、必要な地域ケア体制について検討し、実習施設の地域における機能と役割について説明できる。</li> <li>5. 現在行われている看護実践における課題を明らかにし、看護専門職として将来展望を持ち、必要な改善について説明できる。</li> </ol>						
学習内容ならびに方法								
実習期間	10日間							
実習場所	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 高度医療の場（自治医科大学附属病院、自治医科大学とちぎ子ども医療センター、自治医科大学附属さいたま医療センターなど）</li> <li>(2) へき地を含む地域、その他のフィールド（市町村保健福祉センター、訪問看護ステーション、介護老人保健施設、社会復帰施設、グループホーム、事業場、診療所、助産所など）</li> </ol>							
担当教員	看護系全教員							
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 原則、所定の期間に臨地で実習する。実習日程は各グループにおいて調整可能であるが、必ず前学期で実習を終える。</li> <li>(2) 学生自らが実習目標及び実習方法を計画立案し、臨地の指導者等と調整しながら看護を展開し、その評価を行う。</li> <li>(3) 対象者にとって必要な支援を提供するために、看護職として必要な他職種との協働（調整や連携）、チームアプローチについて検討する。</li> </ol>							
実習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4月初旬の全体オリエンテーションにおいて、要項を配付し概要を示す。「看護実践における課題に関するアンケート」を指定の日時までに提出する。</li> <li>・ 各学生の看護実践における課題に基づきグループ分けを行い、グループ毎に学習する。</li> <li>・ これまでの学習を踏まえながら、自己の看護実践における課題を見出す。</li> <li>・ 「看護総合セミナー」において検討する自己の看護実践における課題を深めながら、実習施設の特性、受け持つ対象者の特性などを踏まえて、実施可能な実習計画を立案して看護を展開する。</li> <li>・ 対象者にとって必要な看護を提供する上で、①組織における課題、②必要な他職種や他機関との協働、③チームアプローチについて検討する。</li> <li>・ 実習終了後には、グループ毎に学習目標に沿って討議し、実習全体の学びを統合して実習のまとめを行う。</li> <li>・ 各実習場所における実習方法の詳細については、グループ別のオリエンテーション時に説明をする。</li> </ul>							
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単位を取得していることが必要な科目：「小児期看護実習」「周産期看護実習」「成人期健康危機看護実習」「成人期長期療養看護実習」「老年臨床看護実習」「老年在宅看護実習」「精神保健看護実習」「公衆衛生看護実習」</li> </ul>			評価方法	実習評価票に基づき評価する（100%）			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「文献講読セミナー」及び「研究セミナー」における学習内容をよく復習しながら、本科目の学習に臨む。また、予習として、自己の看護実践における課題に関連する資料や文献等について、日頃から広く情報収集しておく。</li> <li>・ 自己の看護実践における課題を明確にしつつ、自ら行動計画を立案し、主体的に実習を行う。</li> <li>・ 「看護総合セミナー」と連動しながら学習を展開し、本科目の学習を踏まえて「看護総合セミナー」の学習を深められるようにする。</li> </ul>							